

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定 ・ 実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価(3月10日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(2月25日実施)	成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	・自立と社会参加をめざし、各教育部門、各学部において、それぞれが系統性のある教育課程の編成や組織的な授業改善に取り組む。	①新学習指導要領の理解を深め、適切に教育課程を編成し、授業改善に向けた校内研究、研修を実施していく。 ②ICT 機器の活用や児童生徒に適した教材教具の開発等に積極的に取り組む。	①新学習指導要領の理解を深め、個別教育計画を踏まえた授業実践に取り組み、教育課程の検証と改善を行う。また、授業改善に向けた校内研究、研修を推進し、積極的な授業公開を進める。 ②ICT 機器や教材教具の情報共有と有効な活用を促す研修等に積極的に取り組む。	①児童・生徒一人ひとりのニーズと課題を共有し、新学習指導要領に対する教職員の共通理解と組織的な研究、授業実践ができたか。 ②児童・生徒一人ひとりに適したICT 教材を含む教材教具の活用と改善を進められたか。	①新学習指導要領を基本とし、校内研究や研修を通して、担任間で共有した生徒の実態や課題を基に、より生徒の実態に即した形で授業改善に取り組むことができた。 ②ICT 機器や教材教具の情報共有を行い、それぞれの授業に活用した。更に、臨時休校中や分散登校時において、動画配信やリモートの学部集会等を実施することができた。	①引き続き、新学習指導要領の理解を深め、個別教育計画を踏まえた授業実践に取り組み、教育課程の検証と改善を行う。特に高等部においては、今年度取り組んだシチズンシップ教育について精査し、推進していく。 ②今年度の状況下で発展した ICT 機器を活用した授業や教材教具の工夫、授業改善を、今後も継続して、推進していく。	(保護者アンケート肯定的回答率) ※()内は昨年度の% 全体回収率51.5% ①小学部から高等部までのつながりを大切にした取組みをしている。75%(72%) ②教材教具等、教員間で情報を共有活用して授業実践している。74%(73%) (中・高生徒アンケート) ・学校生活や授業の設問では、楽しいが94%(96%)、好きな授業があると83%(91%)が回答 (学校運営協議会・学校評価部会) ・動画配信やリモートの学部集会等、児童生徒の交流活動や保護者向け情報発信として、今後も継続して取り組まれることを望みます。シチズンシップ教育が推進されることを願います。 ・「学校生活が楽しい」の回答が高いのはとても評価できると思います。	①新学習指導要領を基に、校内研究や研修を通して、より生徒の実態に即した形で授業改善に取り組むことができた。今後も教職員の共通理解と組織的な研究、研修、授業実践が必要である。 ②ICT 機器や教材教具の情報共有を行い、それぞれの授業に活用した。動画配信などのネットワークを活用した協働的な学びの環境整備等が課題である。	①これまでの研究成果を活かした学習指導案の書式を導入し、引き続き、新学習指導要領の理解を深め、個別教育計画を踏まえた授業実践に取り組む。 ②GIGA スクール構想の実現に向けて、ICTを活用した授業づくり、ネットワークを活用した協働的な学びの環境整備、視線入力機器の活用と管理等に取り組む。
2	生徒指導・ 支援	・児童・生徒一人ひとりの実態や支援ニーズ、生活年齢に応じた指導・支援を組織的、計画的に取り組む。	①児童・生徒一人ひとりの実態や支援ニーズ、生活年齢を十分に踏まえた上で、アセスメントを充実させ、指導支援に取り組む。 ②個別教育計画の新書式の完成度を高め、作成、評価、活用する方法等について整理、改善に取り組む。	①専門職、教育相談担当を含めたチームで情報を共有し、個別教育計画に反映して実践に活かしていく。また、実態やニーズに応じた指導・支援の専門性の向上に取り組む。 ②個別教育計画がより充実したものになるように新学習指導要領との整合性を含め、作成、評価、活用する方法について整理、改善を図る。	①学校全体でアセスメントや相談システムを活用し、個別教育計画に反映して個に応じた指導・支援を行うことができたか。また、研究・研修を通して、専門性を高め、実践に活かすことができたか。 ②新書式の個別教育計画の適正な運用と適切な引継ぎに基づくきめ細かな指導・支援ができたか。	①随時、専門職、教育相談担当、必要に応じて関係機関との連携や情報を共有し、個別教育計画を作成し、指導支援に活かすことができた。また、研究・研修を通して、学部及び学校全体のスキルアップにつながる取り組みも行った。 ②個別教育計画と新学習指導要領との整合性を含め、内容を見直し、保護者との共通理解のもと、作成、評価、活用する方法について整理、改善を図った。	①今後も専門職、教育相談担当、関係機関との定期的な情報共有や連携をするとともに、柔軟で迅速なより良い指導体制の構築を目指す。また、今後も幅広い内容について研修し、学校全体の指導力、支援の質の向上をめざす。 ②個別教育計画の内容を見直し、年間計画とのつながりや一人ひとりの教育的ニーズに応じた評価等(観点別評価等)について検証し、引き続き改善を進める。	(保護者アンケート肯定的回答率) ①必要に応じて専門職等と連携して、児童生徒のニーズに応じた支援に取り組んでいる。77%(82%) ②個別教育計画はわかりやすい内容となっている。94%(93%) (中・高生徒アンケート) ・先生はあなたの話や悩みを聞いてくれたと93%(96%)が回答。 (学校運営協議会・学校評価部会) ・校内外の連携・情報共有によって作成された個別指導計画に基づく支援・指導が実践されることを望みます。 ・関係機関との連携、個別ニーズへの取組が良い支援に繋がっていると思います ・アンケートから児童生徒や保護者への一人ひとりの支援が丁寧に行われていることがわかり、高く評価されるべき内容だと感じます。	①専門職、教育相談担当を含めたチームで情報を共有し、個別教育計画に反映して指導支援に活かすことができた。今後もその成果を継続し、全体で取り組んでいく必要がある。 ②個別教育計画と新学習指導要領との整合性を含め、内容を見直し、保護者との共通理解のもと、作成、評価、活用する方法について整理、改善を図った。よりよい運用に向けて課題の整理をしていく。	①今後も専門職、教育相談担当等と連携し、柔軟で迅速なより良い指導体制の構築をめざす。そのために、学年学部単位の取組みを学校全体で共有するシステムを整備していく。 ②更に充実したものとなるように、内容を見直し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた評価等(観点別評価等)について検証し、引き続き改善を進める。
3	進路指導・ 支援	・将来の一人ひとりの生活の充実をめざし、卒業後の進路を視野に入れ、障害の特性や発達段階に応じた進路指導・支援を行う。	①児童・生徒の自立と社会参加を見据え、発達段階など個に応じた一貫性のあるキャリア教育の推進を図る。	①児童・生徒の実態に応じた生活スキルや社会的スキルの獲得に重点を置いた指導を推進するとともに、系統的、継続的なきめ細かなキャリア教育と支援を進める。	①卒業後の進路を視野に入れ、障害の特性や発達段階に応じた系統的、継続的なきめ細かなキャリア教育と支援を進めることができたか。	①感染症予防対策のため例年とは異なるものとなったが、保護者、進路担当及び専門職等と連携し、方法や時期等を工夫し、個々の特性や発達段階に応じた進路支援を実施することができた。	①今年度の感染予防対策の取り組みを基にして、今後も継続して保護者、進路支援及び専門職等と連携し、さらに関係諸機関との連携も強化し、発達段階など個に応じた一貫性のあるキャリア教育の推進を図る。	(保護者アンケート肯定的回答率) ①生活や社会的スキルの獲得に向け、人や施設・場면을効果的に活用した校外学習や日常の授業に取り組んでいる。83%(80%) ②保護者対象の進路先の見学会や福祉制度説明会等は参考になっている。67%(81%) (中・高生徒アンケート) 職業、作業や進路の授業は役に立つ95%(96%)、授業で卒業後の進路先や生活がわかると74%(77%)が回答。	①保護者、進路担当及び専門職等と連携し、方法や時期等を工夫し、個々の特性や発達段階に応じた支援を実施することができた。今後も系統的、継続的なきめ細かなキャリア教育と支援を進める。	①今年度の感染予防対策の取り組みを基に、これまでの取組みを整理し、今後も継続して発達段階など個に応じた一貫性のあるキャリア教育の推進を図る。

